

実施年度	実施主体	対象獣種
R8～R9	広島県	シカ、イノシシ

現状・課題

近年、捕獲頭数は増加しているものの、被害額は下げ止まっている中で、今後、有害捕獲を担う従事者のリタイアが進めば、捕獲体制が縮小し、被害対策への影響が懸念される。このため、スマート技術を活用して省力的かつ効果的に加害個体を捕獲する技術の定着が求められる。

事業概要

生息・出没状況を把握しながら、安全かつ省力的な捕獲手法によって、加害個体を確実に捕獲するため、

- ・ドローンやセンサーカメラ等による生息・出没調査、
- ・これら調査結果に加え、被害状況、柵の位置、放任果樹の分布、圃場ごとの栽培作物の情報等のGIS上での見える化、
- ・データに基づく捕獲計画（捕獲場所、時期、方法等）の作成、
- ・遠隔操作わな等による省力的かつ効果的な捕獲、捕獲データの収集、
- ・カメラ等のデータを用いたGIS上での捕獲効果の分析を実施。

更に、2年間の実証成果を手順書に整理し、市町の有害捕獲活動等に普及を図る。

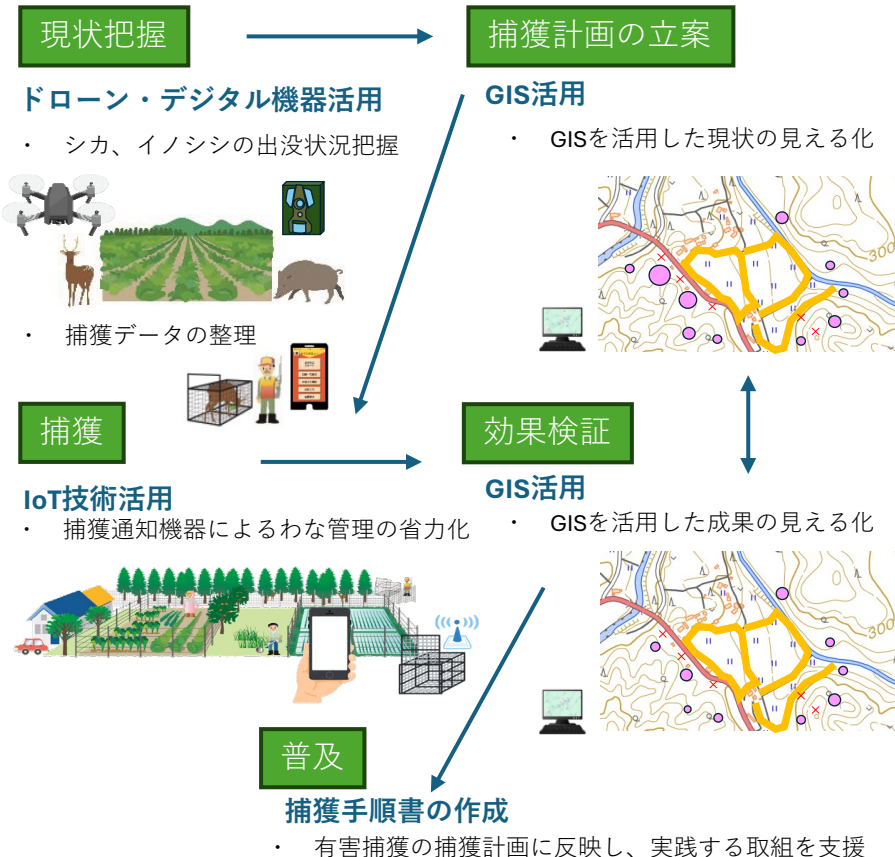
活用機器 ※交付金活用外の機器を含む

- ・センサーカメラ
- ・ドローン
- ・捕獲通知機器
- ・捕獲確認アプリ

モデル地区の普及範囲

県内市町

【イメージ】



※今後公募型プロポーザル提案により内容が一部変更となる可能性があります